②　アルミニウムを始めとする金属資源リサイクルの推進

＜事例紹介３＞

「アルミでかなえる、軽やかな世界
～自治体におけるアルミの循環促進と環境保護～」

株式会社ＵＡＣＪ

渉外部 部長　清水 真知子

令和8年度中部地方資源循環自治体フォーラム

アルミでかなえる、軽やかな世界
～自治体におけるアルミの循環促進と環境保護～



2026年11月17日
株式会社ＵＡＣＪ
清水 真知子

© UACJ Corporation. All rights reserved.

UACJ
Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

株式会社ＵＡＣＪについて

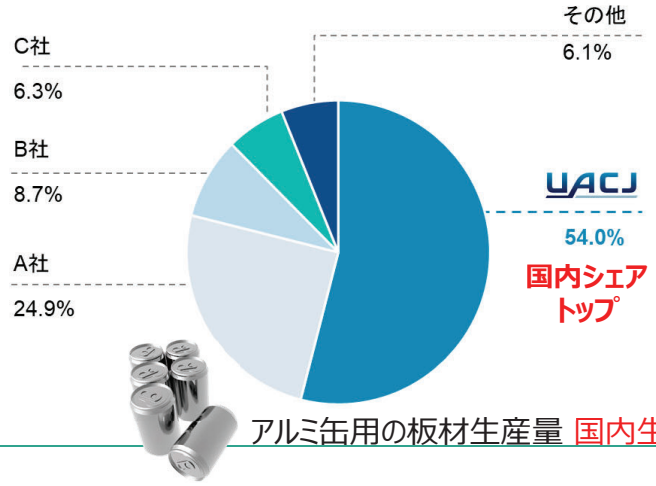
創業　　1897年
2013年、住友軽金属工業と古河スカイアルミニウムが合併

売上高　　1兆1,817億円（2025年度）
従業員数　10,183人（2026年3月31日）
資本金　　522億77百万円

国内におけるマーケットシェア

FY25時点

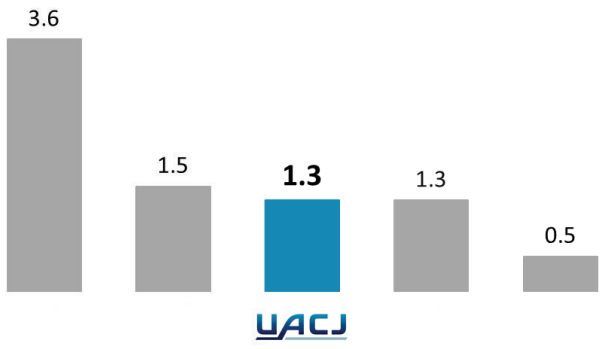
アルミニウム圧延品国内生産量比率（%）



グローバル※における販売量ランキング

FY25時点　※中国を除く

アルミニウムシート・板材グローバル販売量（100万トン）



アルミ缶用の板材生産量 国内生産量では半分以上 を占めます。

ＵＡＣＪの製品用途分野

アルミニウムのチカラを
社会に

自動車分野
アルミニウムの特長を活かし、性能・燃費向上に



ボディパネル材　構造部材　熱交換器材　バッテリーモジュール材



飲料缶分野
原材料に活用して、リサイクルの促進に



医薬品・食品分野
無害・密閉性などの特性を活かして、安全・安心な暮らしを





半導体製造装置分野
真空チャンバー用途で活用



航空・宇宙分野
最先端技術を活用して、安全性と燃費向上の両立へ

IT分野
モバイル化が進むIT機器を軽量・高強度に



船舶分野
輸送船の高速化・軽量化・耐食性向上に



建築分野
多様な特性から、景観性と作業性の向上に



ＵＡＣＪ概要　ネットワーク



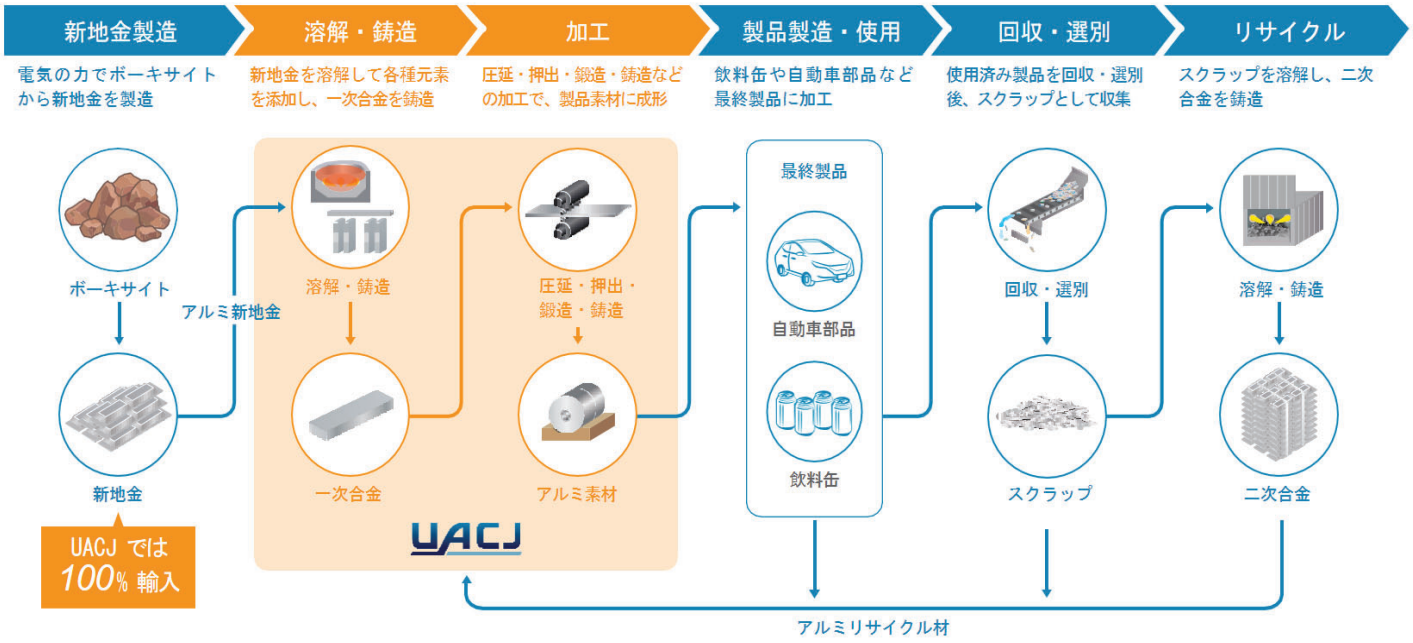
国内ネットワーク	国内拠点	11拠点
	国内グループ	24社
海外ネットワーク	海外グループ会社	35社





主要な国内基幹拠点が北陸・中部地方に所在しています。

ＵＡＣＪのビジネス領域 ～アルミニウム圧延品ができるまで～



UACJ Corporation. All rights reserved.

ＵＡＣＪのグループ理念

企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

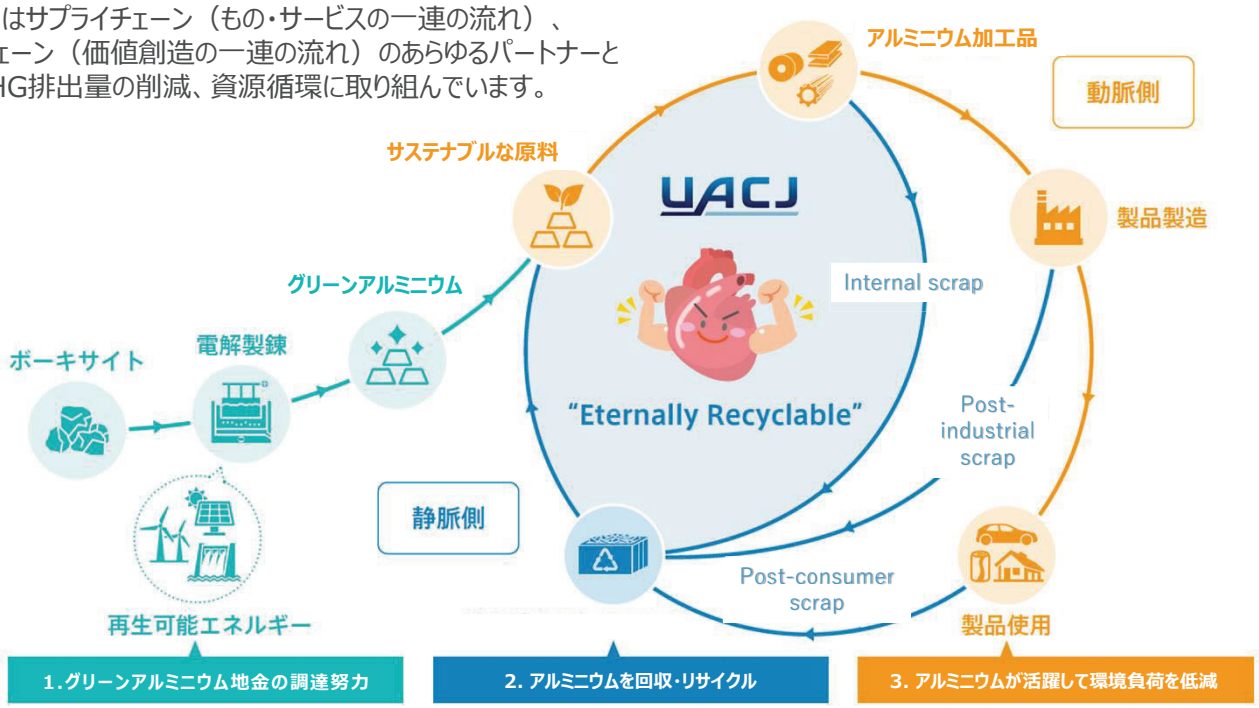
目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。



環境負荷低減のための取り組み

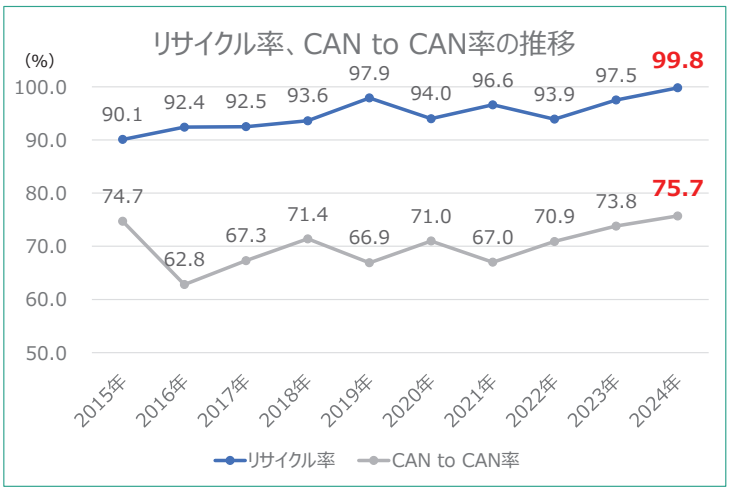
ＵＡＣＪはサプライチェーン（もの・サービスの一連の流れ）、
バリューチェーン（価値創造の一連の流れ）のあらゆるパートナーと
協働しGHG排出量の削減、資源循環に取り組んでいます。



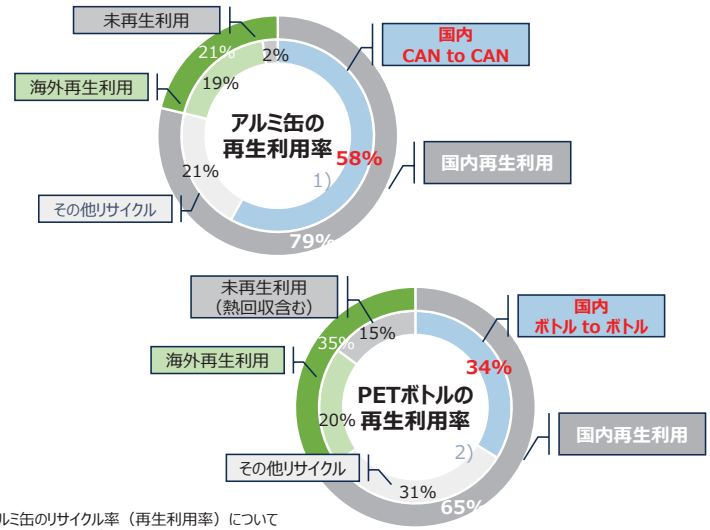
アルミ缶は何度でもリサイクルできるサステナブルな容器

飲料容器の中で、最も高い回収率と水平リサイクル率を誇ります。

2024年には
リサイクル率：**99.8%**
CAN to CAN率：**75.7%** を達成



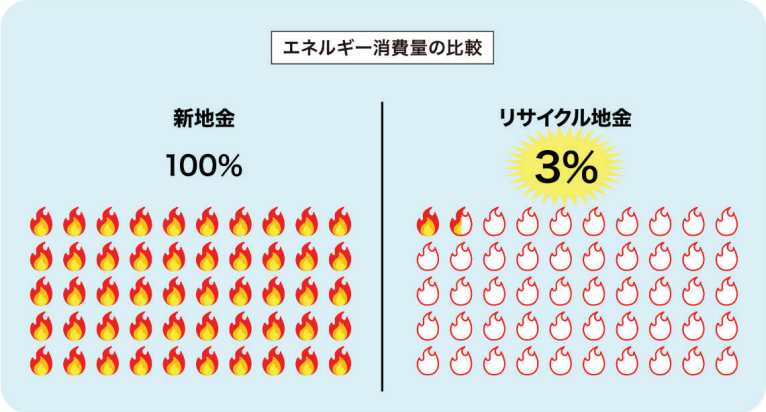
PETボトルはボトルtoボトルが容易でなく、
繊維やトレーへのカスケードリサイクル、
サーマルリカバリー（熱回収）が多い傾向



1) アルミ缶リサイクル協会：2023年（令和5年）度 飲料用アルミ缶のリサイクル率（再生利用率）について
2) PETボトルリサイクル推進協議会：PETボトルリサイクル年次報告書2024 （＊2023年度実績）

アルミ缶をリサイクルし続けることが理想の姿

リサイクルの高度なエコシステムが整っている日本において、アルミ缶は飲料容器の中で最も省エネルギーに貢献します。



展伸材用スクラップ溶解のインベントリ分析報告書（2023年3月,日本アルミニウム協会）

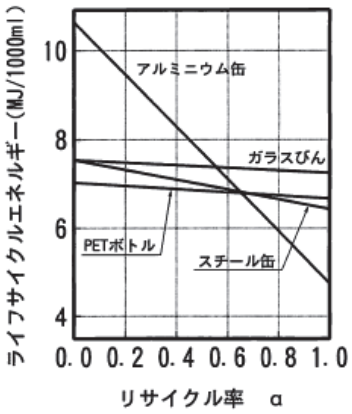


図8 各容器のライフサイクルエネルギー

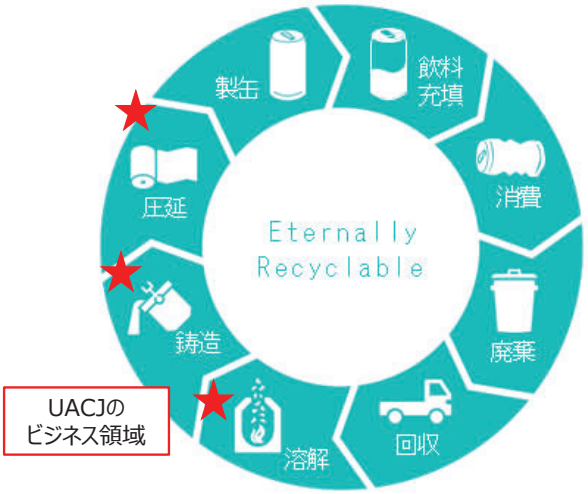
田代ら：軽金属, 46 (1996), 607-612.

アルミ缶はリサイクルするほど、**ライフサイクルエネルギー**が良化します
リサイクル率が70%を超えると、他の容器よりエコな循環となります

アルミ缶の循環利用の仕組み

アルミ缶は、**社会において高度な循環・再生システムが構築**されており、リサイクル率が高いです。特に、分別を伴った広範な回収網がある点で、様々な素材の中で資源循環のモデルとなっています。

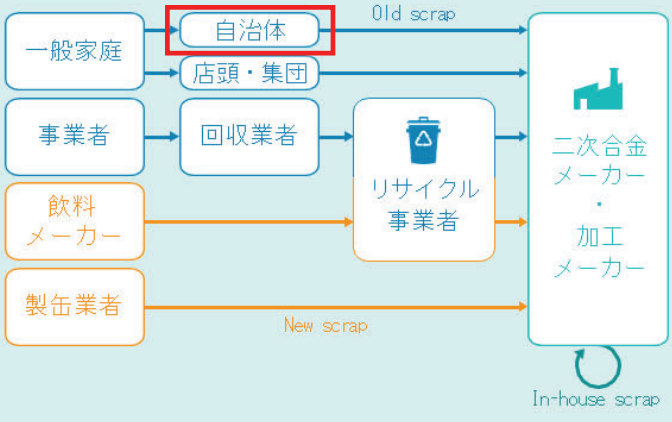
アルミ缶の再生システム



アルミ缶の回収網

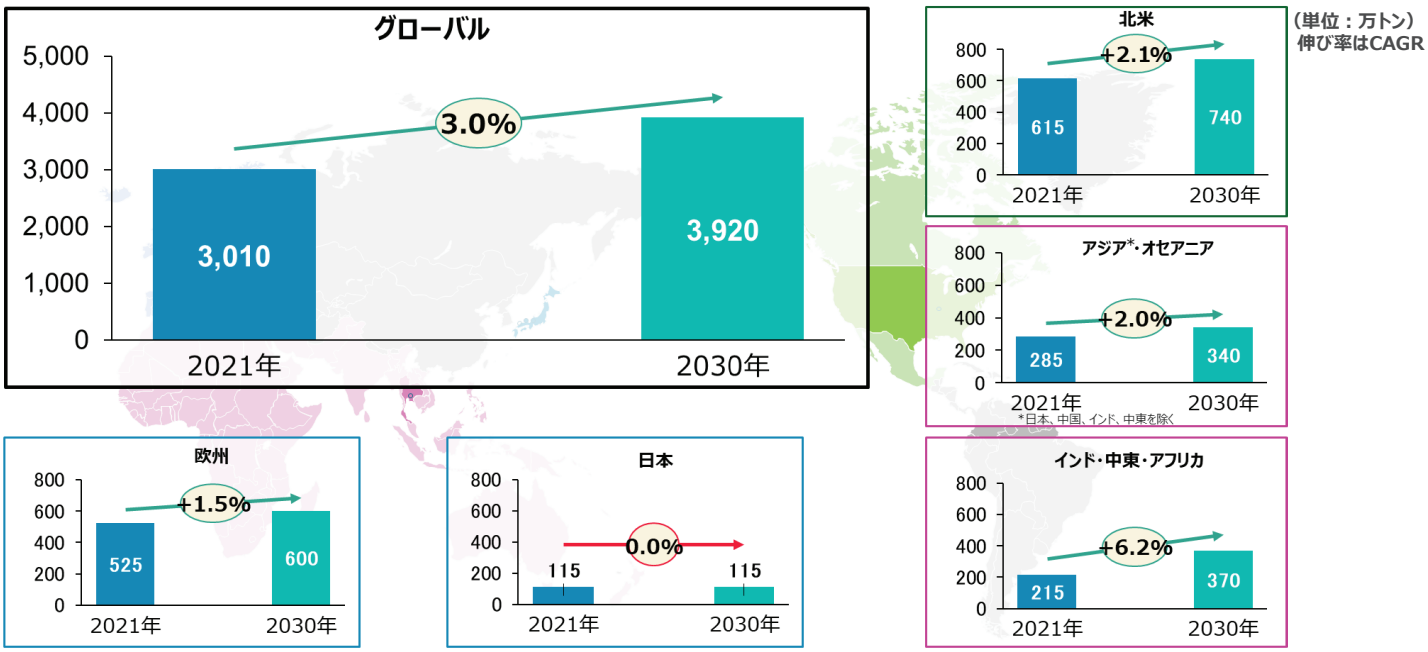
自治体の皆様が循環の主役です。

アルミ缶では、分別回収のインフラが確立されています。
様々な業界関係者のたゆまぬ努力により整備されてきました。



世界のアルミ缶需要予測

人口増加、経済成長に加え、脱プラスチックの動きが追い風になり、アルミ缶の需要は海外にて成長しています。



（単位：万トン）
伸び率はCAGR

出典：UACJ調査による（2026年2月時点）

国際会議でのアルミ缶活用　G20/COP

・2024年11月開催の**G20**リオサミットでアルミ缶入りミネラルウォーター採用され、各WGや首脳会合もあわせ合計約10万本提供されました。
・ブラジル外務省とAbralatas（アルミ缶製造業者協会）による取り組み。
・アルミ缶はリサイクル性が高く、炭素及び水のフットプリントも低いことを強調、プラスチック削減の象徴としての採用。
・G20国家ロジスティクスコーディネーターのカルロス・ビラノバ氏は「アルミ缶のパッケージは循環型経済の普遍的な象徴」と述べました。

・2025年11月10日～21日にブラジルのベレンで開催された**COP30**（国連気候変動枠組条約第30回締約国会議）にて、初めてブルーゾーン（代表者交渉の場）でのアルミ缶入りウォーター提供が決定しました。国連公式として約150万本と大規模での採用でした。
・ハイネケン、ボール、ノベリス、フォルクスワーゲンら主要パートナーとの協力により、ベレン市とも提携して空き缶収集からリサイクル施設、さらに溶かしてアルミを再生しバリューチェーンに戻る仕組みも実現しました。





ブラジル政府、ブラジル・アルミ缶製造業者協会、Heineken Brazil 公式より

自治体様との取り組み事例紹介

福井県坂井市との取り組み　～アルミ缶回収機の運用～

坂井市ででたアルミ缶がまた缶材になる具体的なループを描くため、アルミ缶を自動選別する回収機を坂井市役所に導入しました。
運用面では坂井市と協働し、水平資源循環、市民意識向上、雇用創出を行っています。







UACJ GROUP　坂井市

広島県との取り組み　～アルミ缶ボトルウォーター推進による素材代替～

GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム（GSHIP）への参画と補助金事業への採択

広島県の目指す姿：2050年までに瀬戸内海に新たに流出するプラスチックごみの量を“ゼロ”にする。

➡ 官民連携プラットフォーム「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム」（略称「GSHIP」）が令和3年に設立

オリジナルの印刷でのアルミ缶製造には最低7万本程度が必要。脱プラや環境対応で採用意向あるも躊躇するケースが散見
当社にて無地の水缶を在庫し、ラベルシールを貼付することで**最少100缶から**オリジナルデザインを可能とするスキームを実施

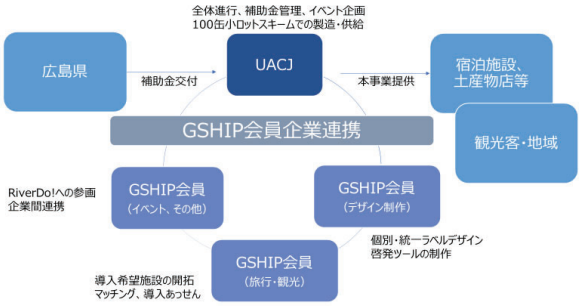
広島県 令和8年度 海洋プラスチック対策（プラスチック使用量削減等）・リーディングプロジェクト支援補助事業において、
広島県の目指す姿に近づける施策との評価により採択

なぜ、アルミ缶なのか

有価物としての強固な回収基盤：
アルミは有価物であるため、万が一散乱しても拾われ、
回収ルートに乗りやすい（国内回収率99.8%）

半永久的な資源循環：
回収されたアルミ缶は、ほとんど品質を落とさず
何度でもアルミ缶に生まれ変わることができ、
水平リサイクル率75.7%を誇る

一目で伝わる環境メディア：
生分解性プラ等とは違い「一目でプラスチックではない」と
直感的に伝わり、生活者の意識を直接的に啓発する





さまざまなアルミ缶活用の取り組み







神奈川県提供

広島では世界遺産登録30周年記念事業実行委員会、公益財団法人広島平和文化センターでは会議や教育、イベントで、
神奈川県では、知事室、副知事室での展示、GREEN EXPO関連イベントやさかなクンのプラごみゼロ教室、
資源循環や海外潮流をふまえ、アルミカップやアルミ缶ボトルウォーターをご活用いただいています。

おわりに

アルミ容器一つをとっても、店舗で普通に選択できる世の中へ変えていくことの難しさを日々実感しています。
その中でも少しずつ、外資系企業・ホテル・金融機関などが、「循環」「脱プラスチック」をキーワードに
アルミ缶を採用する事例が増えてきています。欧米で見られるようなアルミ缶の広がりを日本でも。
自治体の皆様こそがその地域や人々を啓発し、意識変容を牽引する存在であり、そのお手伝いが出来ればと思っています。
情報やボトル缶水の提供など、お力になれそうなことがあればいつでもお声がけ下さい。

